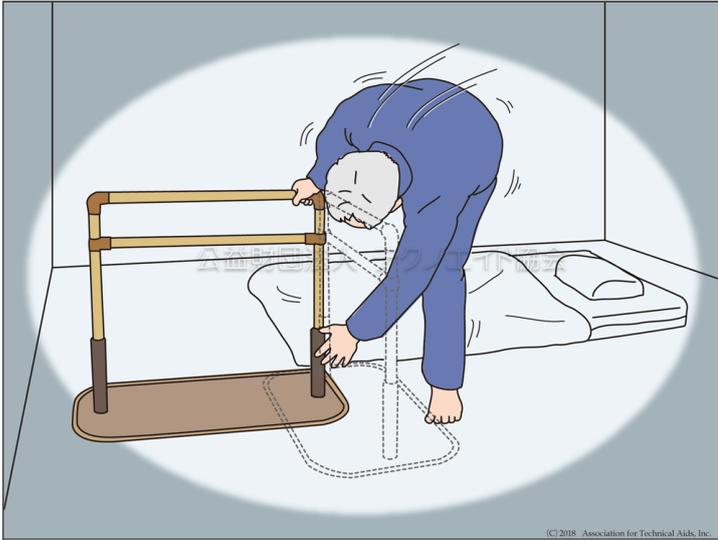


Case : 340

つかもうとした手すりが無く、バランスを崩して転倒しそうになる

場面の説明

寝室内の移動に床置き形手すりを使用していたが、家族が定位置から移動させていたため、夜間にトイレへ行く際、手すりをつかみ損ねて転倒しそうになった。



利用シーン	 立ち座り
	 夜間
主な利用場所	 寝室
介護保険の種目	 手すり
分類コード (CCTA95)	123009 (床置き式起き上がり用手すり)
介護テクノロジー	—
二次元バーコード	

解説

寝室や居室を利用者だけでなく、家族も共有する場合、床置き手すりやポータブルトイレ等、設置した福祉用具が日常生活の邪魔になることがあり、家族が一時的に場所を変えることがあります。利用者に身体機能の余裕がない場合、微妙に位置が変わることで転倒やケガにつながることもあるので、慎重に行う必要があります。特に夜間で薄暗い中での動作も事故の誘因になります。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

- 人：家族が手すりを移動していた
- 人：本人が手すりが無いことに気づかなかった
- 環境：寝室が家族との共有スペースだった。夜間で薄暗かった
- 管理：福祉用具の設置位置を変更する場合、転倒等の危険が生じることを注意喚起する必要があった